

令和7年度信州まつもと空港搭乗者アンケート調査

定期便(新千歳便・福岡便・神戸便)(令和7年12月～令和8年2月)における利用者の動向

- 1 実施期間

令和7年12月～令和8年2月(期間中の計90日間)
- 2 調査方法

ウェブアンケート
(信州まつもと空港搭乗待合室にアンケートフォームへアクセスする二次元コード付きのチラシを掲示)
- 3 調査対象

信州まつもと空港定期便の出発便の搭乗者
- 4 有効回収票数

合計 502票

福岡便（2便）178票

新千歳便（1便）139票

神戸便（1便）161票
- 5 アンケート期間中の搭乗者数（利用率）

福岡便 20,087人（67.9%）

新千歳便 12,148人（82.8%）

神戸便 11,971人（72.8%）
- 6 その他

・令和4年度から調査方法を聞き取り方式からウェブアンケート方式に変更

・令和6年度より夏期と冬期の2回の実施に変更

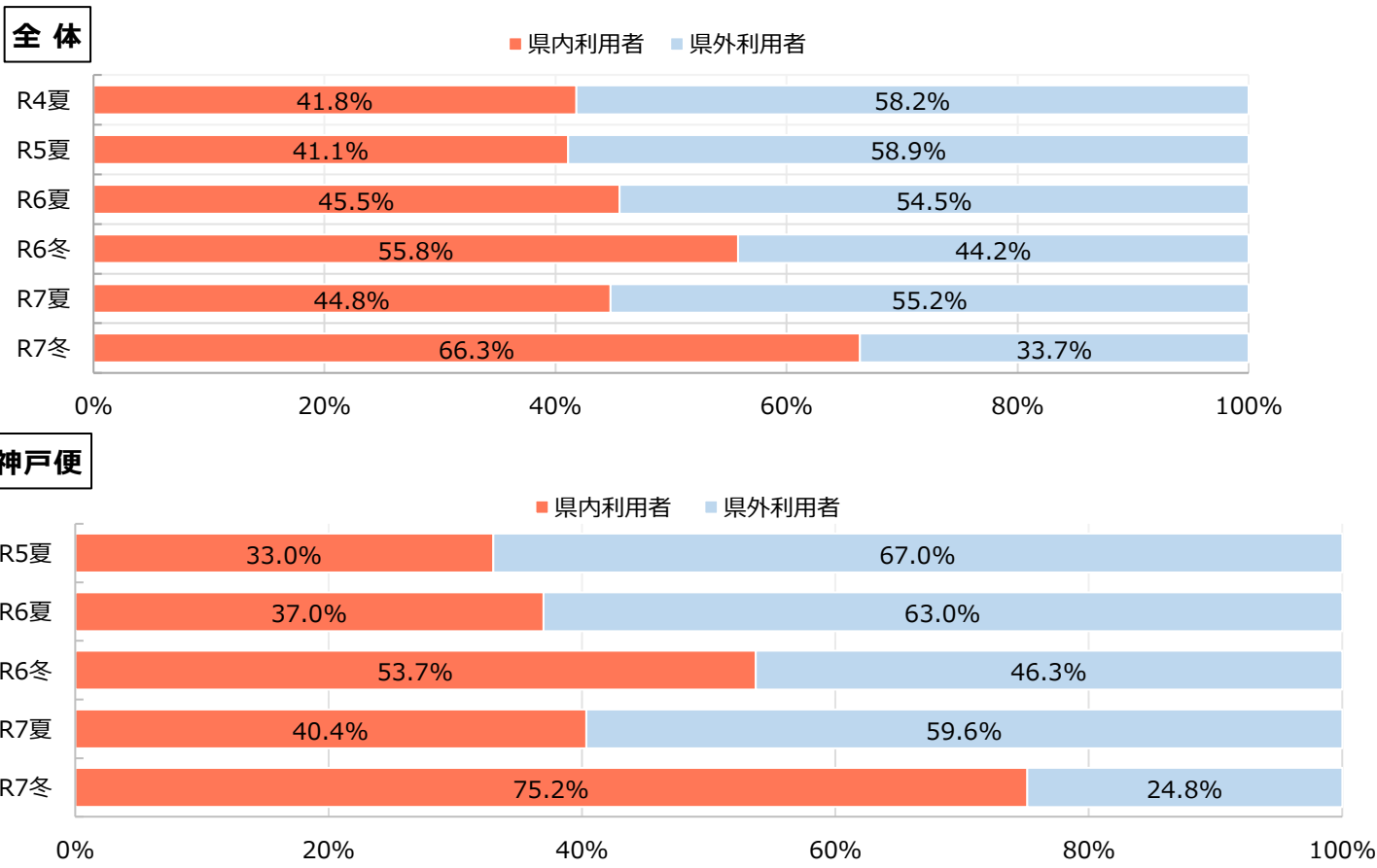
・令和7年度よりアンケート方法をながの電子サービスからMicrosoft Formsに変更

【県内・県外利用者の状況】

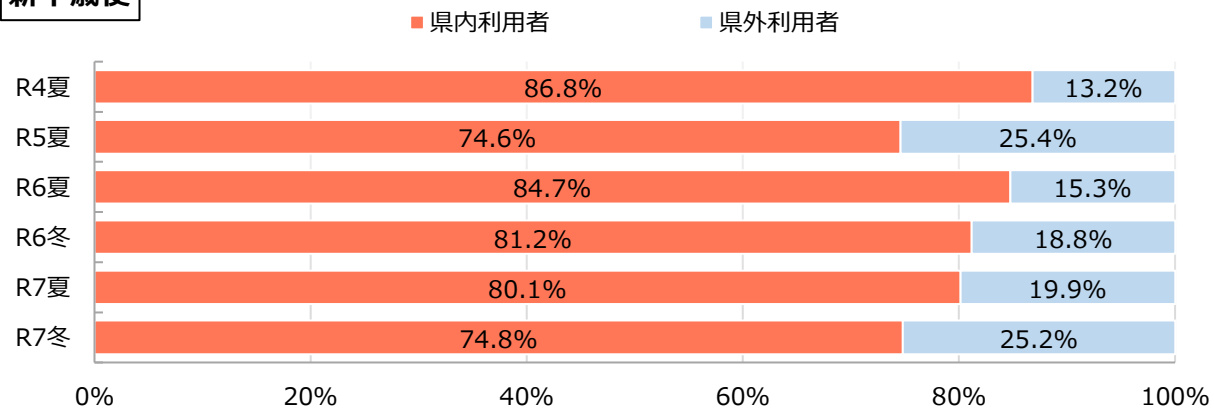
令和7年度冬アンケートにおける定期便全体の利用者構成を見ると、**県内利用者が66.3%、県外利用者が33.7%**となり、**県内利用者の割合が高い**結果となった。

この傾向は前年同期（令和6年度冬）と同様であり、季節比較では「**夏は県外利用者が多く、冬は県内利用者が多い**」という特徴が継続して確認できる。

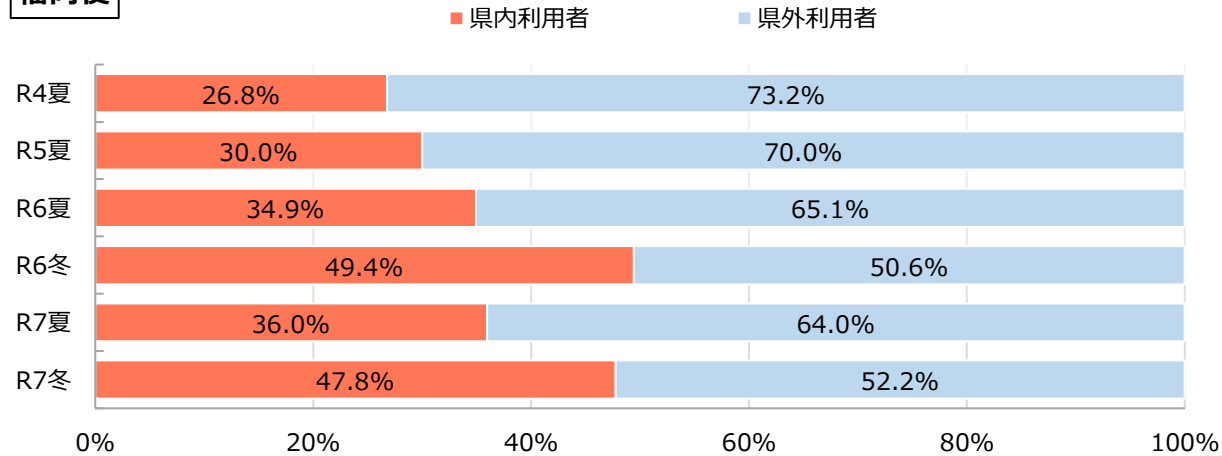
路線別にみると、**神戸便・新千歳便はいずれも県内利用者の割合が高い傾向**にある。一方で**福岡便は県外利用者の割合が高く**、年間を通じて県外からの需要が強いことが分かる。また神戸便については、県内利用者の割合が前年同期（令和6年度冬）より21.5%増加しており、神戸便の認知度や利用定着が進んでいると考えられる。



新千歳便



福岡便



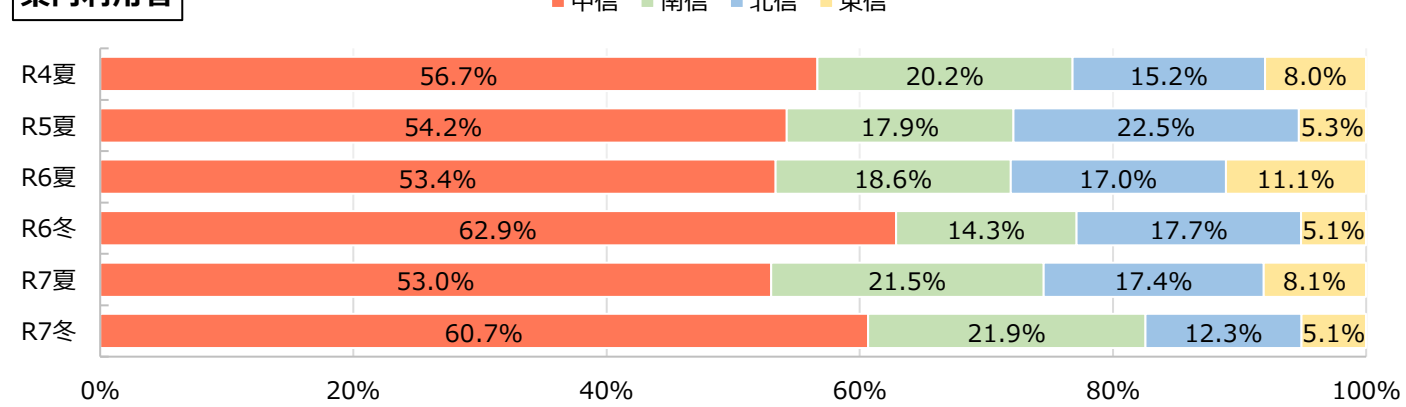
【利用者の居住地】

居住地別に見ると、**県内利用者のうち60.7%が中信地域の居住者**であり、これまでと同様に県内利用者の半数以上を中信地域が占める結果となった。

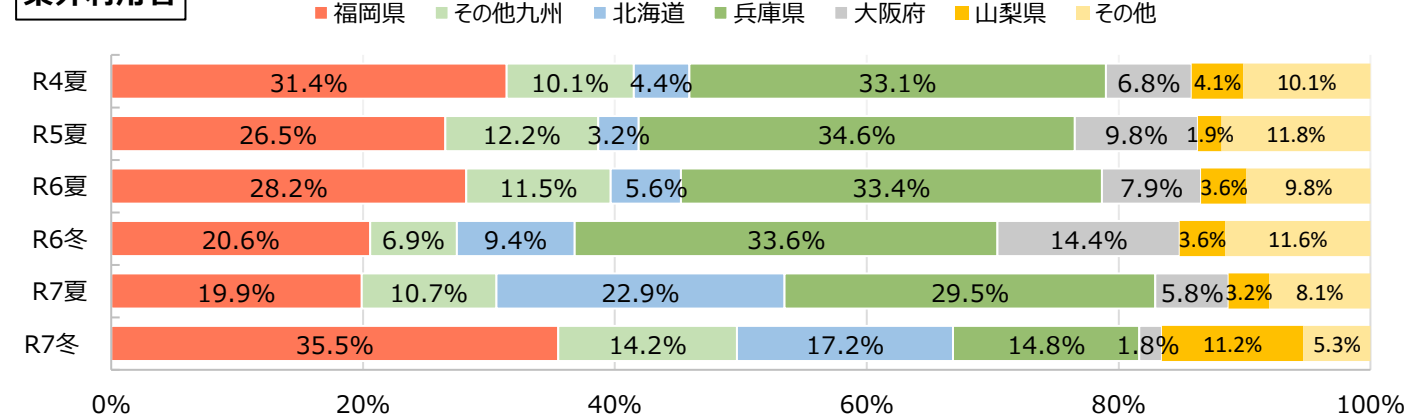
県外利用者では、福岡県の居住者が最も高く（35.5%）、過去5回のアンケート結果の中でも過去最多となった。次いで、**北海道居住者が17.2%を占め、夏期と同様に高い利用が見られた。**一方、**兵庫県からの利用者はR6冬期と比較して18.8%減少しており、冬ダイヤから神戸便が2往復/日→1往復/日となった影響が表れている**と考えられる。

また、**就航地以外では山梨県の利用者が県外利用者全体の11.2%を占め、今回が初めて1割を超えた。**甲府から松本空港までは車で約60分と交通アクセスが良好であることや、駐車場を無料で利用できるといったマスメディアを活用した利便性のPRが浸透してきており、松本空港の広域的な利用が見られる。

県内利用者



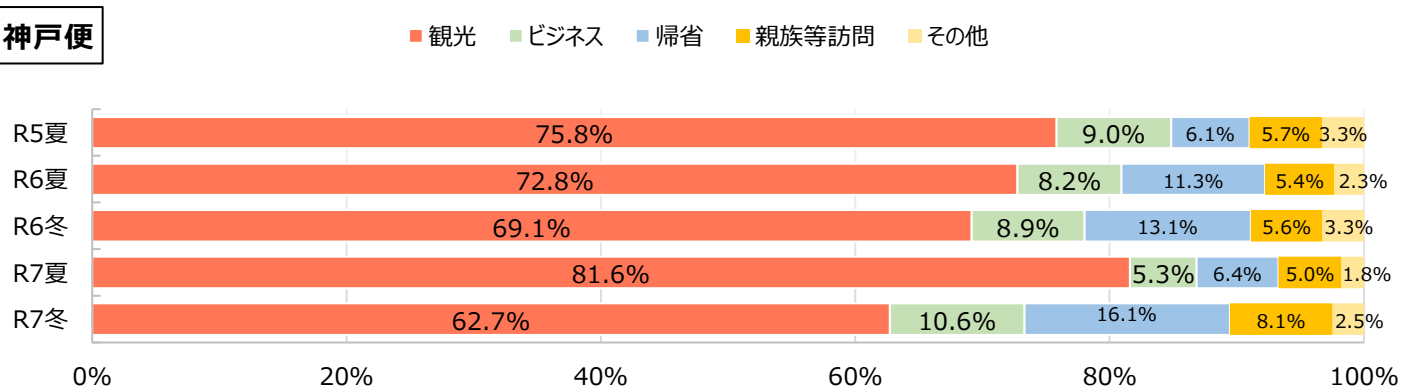
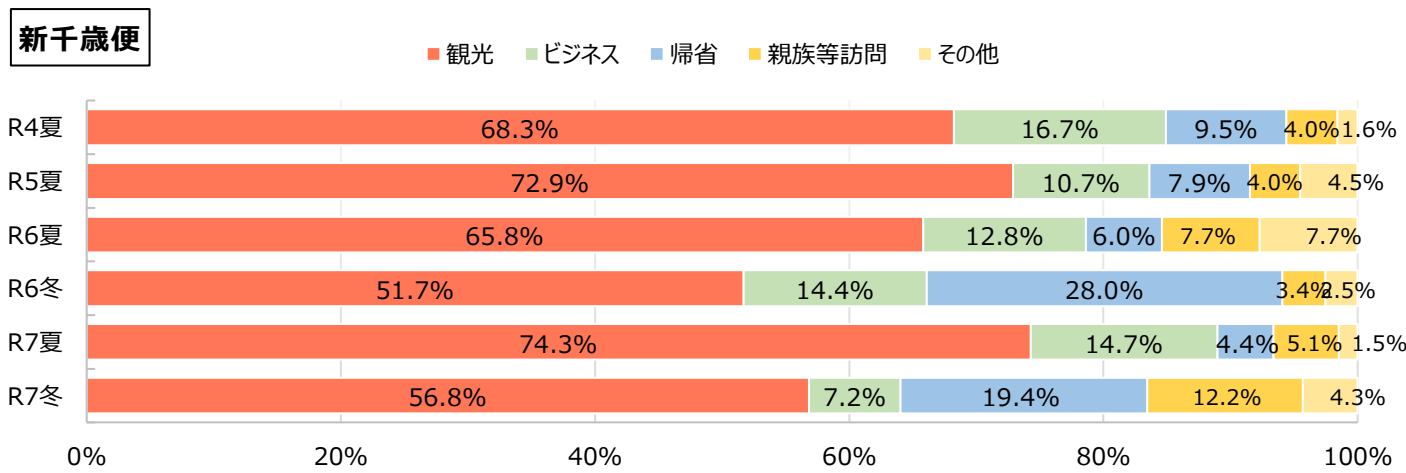
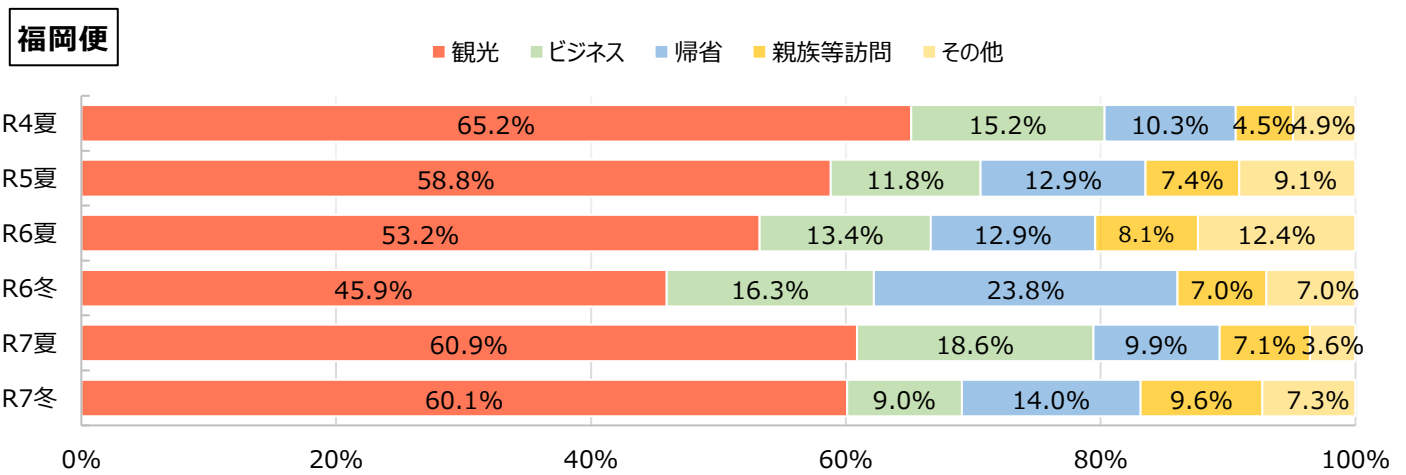
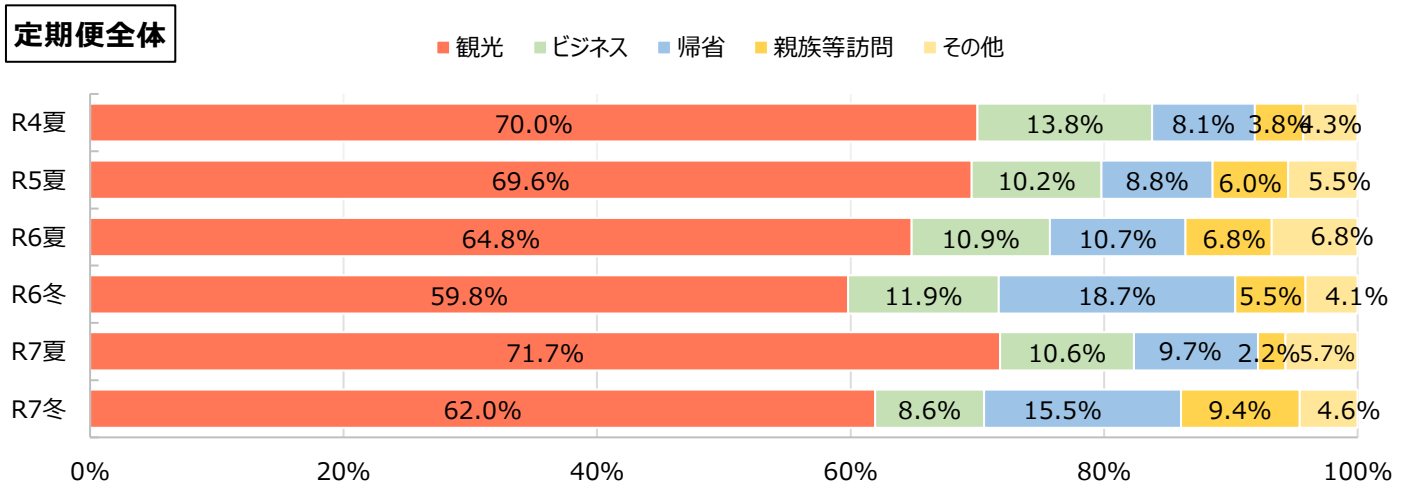
県外利用者



【旅行目的】

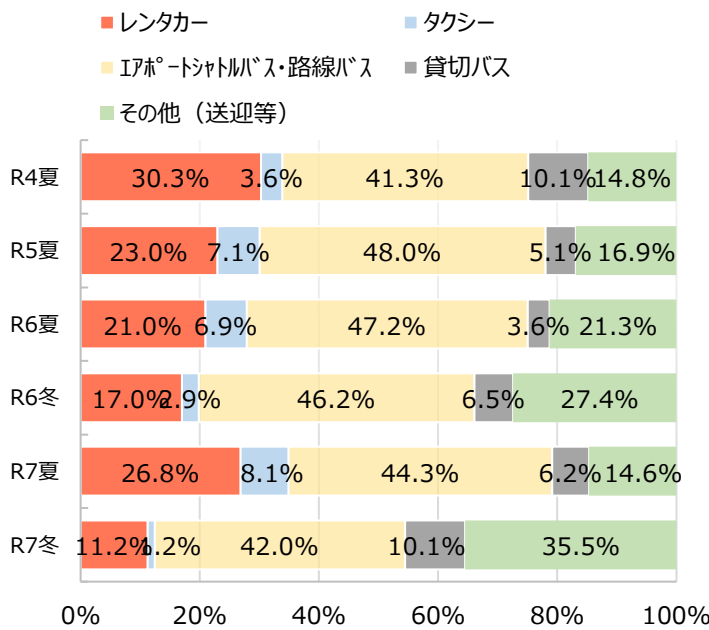
旅行目的別に見ると、定期便全体では「観光」が 62.0%と最も高く、次いで「帰省」が 15.5%、「親族等訪問」が 9.4%を占めている。「帰省」「親族等訪問」を合わせると約25%を占め、年末年始の帰省需要が高いことがうかがえる。

路線別では、いずれの路線も「観光」の割合が最も高い傾向にあるが、夏期と比較すると、いずれの路線でも観光割合は低下している。一方、「帰省」「親族等訪問」の割合は夏期と比べていずれも上昇しており、特に新千歳便では、R7夏と比較して「帰省」目的が 15.0%増加している。また、神戸便では 3 路線の中で唯一「ビジネス」需要が 10%を超えており、ビジネス路線としての利用が一定程度確認できる。

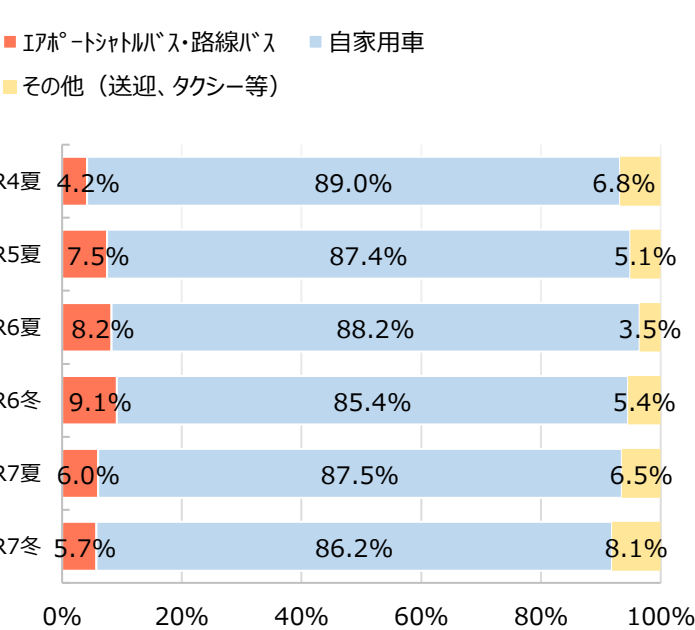


【参考(その他調査項目)】

空港への交通手段(県外利用者)



空港への交通手段(県内利用者)



利用者年齢層

